

《評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分》

学校教育方針		中・長期目標		
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く。  1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実に向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。		1. 自分自身の意見をはっきり持ち、健全でバランス感覚に優れ、社会を支えられる次のような生徒の育成をはかる。 ① 幅広い基本知識を身に付けた生徒 ② 生徒会活動、部活動、HR活動等に積極的に参加する生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりとできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2. 自分自身で進路を開拓し、成就できる次のような生徒の育成をはかる。 ① 資格取得、ポアンティアの実習、体験入学、企業体験などに積極的に臨み、進路実現に意欲的な生徒 ② 知的的好奇心旺盛で、自らの学力を高めることにより、進路を実現しようとする生徒		
		今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策
		1. 学習と部活動・生徒会活動の両立を図り、自己の進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 2. 基本的な生活習慣が身につく、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てる。 3. いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める。	B	1 各学年とも学習に前向きに取り組む姿勢が見られた。自分自身の進路に対する意識をきちんと持てる生徒も多い。今後も高校生活の早い段階から、生徒が自ら進路を開拓していけるように指導を考えていきたい。 2 ほとんどの生徒が基本的な生活習慣を身につけ、規則正しい生活を送っている。挨拶もきちんとできる生徒が多い一方、清掃に対してもう少し意識を高めたという声もある。今後はさらなる清掃活動等への積極的な参加を目指したい。 3 大きな問題は見られなかった。今後とも常にアンテナを高くし、職員間の連絡を密にしながら生徒とのコミュニケーションを一層図っていく。

学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	自己の進路実現に向けて努力する。  いじめのない安心な学校づくりに務める。  基本的な生活習慣の	1	1学年の目標として、「自主的に学習」を掲げた。希望進路実現の第一歩を踏み出せるよう指導できたか。	B	大半の生徒は基本的な学習習慣を確立できている。今後は具体的な進路目標を早めに決定させ、目標実現のためのアプローチ・方策に沿って指導を継続する。
		2	学年目標の第2として「元気・やる気・助け合いの精神を保つ」とした。講習会等も企画しながら、学校に気持ちよく登校できる学校づくりに臨めたか。	B	「情報の科学」の授業や学年規模での講習会も行っているが、不適切なSNS等の利用によりトラブルが少し見受けられた。そのような事例に関しては素早い指導を徹底した。また今後も引き続き生徒全体への啓蒙活動を考えたい。
		3	今後の学校生活の元となる基本的な生活習慣を確立、実行できているか。	A	遅刻・早退があまりなく、生活習慣の乱れがある生徒は少ない。清掃態度も比較的良く、学年集会等も乱れなくスムーズに入ることが出来る。ただしスマホ依存症ともいべき生徒の一部実態は無視できず、来年度の課題である。
2学年	基本的な生活習慣の  自己・他を思いやる力の涵養。  学習の応用力の養成	4	今後の進路を考える上で必須である基本的な生活習慣を獲得、発展させているか。	B	殆どの生徒がリズムある、規律ある生活が送れているが、二年になり、安易な遅刻などが見られる生徒がいた。
		5	2学年指導方針「気づきを大切にしよう。」学校生活の様々な部分で、自分がやらねばならない点、他者への配慮他、集団の一員としていろいろな気づきが出来、それを行動に移せたか。	B	10月に学年として、保健講話「いのちの授業」を外部講師を招き、行った。有意義なお話や、自らの心臓の音を聞くなどの体験を通し、「命」に対して深く考えるきっかけとなった。」
		6	2学年指導方針「授業は積極的に受けよう。」を踏まえた上で、自分のなりの学習方法の確立ができたか。	B	講座別の授業展開に変わり、自分の進路を模索しながら、多くの者が自らのやるべき学習に励んだ。
		7	各種の進路説明会やオープンキャンパス、また研修旅行などを通じて、積極的に自分の進路の方向性を決定することができたか。また、3年次に向けての適切な科目選択ができたか。	B	進路講演会、研修旅行、学校見学など、様々な形で外部からの刺激も受け、又、科目選択などを通じ、否応なく自らの進路方向を、自ら探し決定することが出来た。
3学年	基本的な生活習慣の確立。  自己と他人の意識の獲得。他を思いやる力の涵養。  学習の応用力の養成。  高校生活の総まとめ。	8	今後の進路を考える上で必須である基本的な生活習慣(挨拶や清掃も含めて)を獲得、実践できているか。特に欠席の多い生徒についてはその原因も含めて注意深く指導する。	B	基本的な生活習慣においては概ね実践できたかと思われるが、清掃等において自分の分担はできるがより主体的な取り組みのできるものが少なかった。直ぐに休み欠席・欠課が多い生徒が多かった。もう少し有効な指導方法が見つかればよかった。
		9	3学年指導方針「自分を大切にしよう。」とは、自分とは異なる他者の存在を大切にしなければならぬが、他者への思いやりを実践でき、いじめなどが無いが。	B	概ねよくできたかと思われるが、進路が決定した者と受験者との間にやや気持ちの持ちように差異があり、決定者の受験者への思いやりがもう少し欲しかった。
		10	3学年指導方針「授業は積極的に受けよう。」でいうまでもなく、自分の将来を切り拓く学力を獲得できたか。	B	最後までしっかり取り組める生徒が大勢いる反面、進路決定後は気持ちにゆるみがでている者がやや見受けられた。
		11	進路について明確な目標を持ち、その実現のために必要な学習時間の確保ができたか。部活や生徒会活動との両立はもちろん、休み時間など寸暇を惜しむ時間の使い方ができたか。	B	自分の進路の実現のために努力する生徒が多かった。また、部活との両立もはたし、自分の希望する進路へつながった者も多かったと思われる。進路決定後の最後まで努力する面では多少物足りない者も見受けられた。
		12	豊科高校3年生として、また最上級生として自分の役割や立場を自ら考え、クラスマッチ・豊高祭・合唱コンクールなどの各行事に自主的積極的かつ楽しく参加しているか。自分自身が後悔しないことはもちろん、後輩に対して指導することができたか。	A	3年生としての自覚のある行動がとれた場面が多々見られた。各種行事にも積極的に取り組むことができた。
部	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	安心、安全な学校運営の礎となるべく日常的に機能する	13	生徒が日常生活を順調に送れるよう細やかな配慮ができたか。	A	生徒、保護者への情報発信を、過度にならないように気をつけて、タイミングよくすることに心掛けた。日々の生徒の様子からも、アンケートの集計からも、本校での学校生活に対する満足度は高い。少数の問題点を克服することが今後の課題だと考える。
		14	各部署と連携して生徒の活発な活動を促すような行事計画などを企画、実施できたか。	A	「年間行事計画」の立案から段階から各部署との連携を綿密に行い、ほぼ計画通りに実施して行くことができた。次年度以降も計画段階からの打ち合わせを大切に、生徒のよりよい活動に寄与してゆきたい。
		15	想定外の事象に直面した場合にも、慌てることなく緊急の対応がなされたか。	B	現職職員の急死や大糸線の事故による連休など、日ごろ予想もしていなかった事態に遭遇したが、適切に対応できた。連絡網や一斉メールの改善については、現在対応中である。
	地域や保護者に本校の魅力積極的に発信する	16	HPなどのツールを有効に活用して新鮮な情報を発信できたか。	B	校内の情報をこまめに収集して、正確で迅速な情報提供に努めている。現在の様式はすでに6年目に入っているため、早急なりニューアルが必要である。
		17	2年目となる「学校公開週間」を内容深いものとして実施できたか。	C	文化祭や合唱コンクールなどの行事の折に来校する方は年々増えているが、「授業公開」や「学校公開」への来校者は中学生が中心で、保護者や地域住民は数えるほどである。また、校内での交流もさほど活発ではない。これからの学校教育のために、公開、交流を活発にする打開策を考えたい。

進路指導	生徒による自主的、積極的なキャリア研究と進路実現に向けた計画的な指導と助言	18	キャリア教育を体系的に再構築し、運用できたか。	B	生徒の能動的な活動をうながすための支援は継続的に行う必要がある。生徒の志望状況を正確に把握し、それを踏まえたキャリア教育の運用の検討を今後も行っていきたい。
		19	講演会、ガイダンス等の企画運営や情報の収集が効果的に行えたか。	B	進路別のガイダンスを適切な時期に行えたが、より効果的な企画を検討すると共に就職についての講演会も導入を検討したい。
		20	生徒、保護者、職員への進路情報が効果的に伝達・共有できたか。	C	生徒から通信が保護者に渡らないことが多い。HPの利用が出来るように検討すると共に、保護者に対する情報発信をさらに積極的に考えたい。
生活指導	問題行動の未然防止とその対応	21	不正乗車ゼロを目指し、各種学校行事等で全校に注意喚起することが出来たか？	B	大糸線沿線は、17:00以降無人駅となる駅が多く、中高生の不正乗車が多いことを連絡会などを通して、情報交換することが出来た。本年は一件の事例報告があったが、継続して指導していきたい。
		22	アンケートを実施し、いじめの実態把握と対応がきちんとなされたか。	B	生活指導部、教育相談と連携し、アンケートを実施することが出来た。実態把握と対応を迅速に行えたことはとても良かったと考えている。
		23	交通安全の立ち番を計画的に行いマナーやルールを守る意識を指導することができたか。	A	春の交通安全週間には、全職員で立ち番に立ち、マナー指導をすることが出来た。自転車事故などは例年と横道いで数件あったが、大事故には至らず不幸中の幸いであったと思う。更に指導を徹底し、自転車事故等の被害者・加害者にならないよう指導していきたい。
		24	全職員で授業中や清掃中のスマホ使用について注意喚起することができたか。	B	職員間の指導に対する温度差がないよう、授業中や掃除中のスマホ使用には注意して頂くようお願いしてきた。生徒の中にはまだ徹底できていない部分も見受けられる。
	地域・家庭との連携	25	学校・警察連絡協議会を通じて情報交換と連携が図れたか。	A	学校・警察連絡協議会では、発表の機会もいただき、「個に応じた生活指導のあり方」について情報交換することが出来た。たいへん有意義であったと考えている。
		26	地区PTAなどを活用し、情報交換することができたか。	B	地区PTAでは、活発に意見交換する地域とそうでない地域があり、やり方に工夫が必要なのかもしれないと考えさせられた。個人の意見が出しやすい三者面談なども活用できれば良いのかも知れない。
生徒会指導	生徒主体の行事の運営と魅力ある生徒会組織作り 活発な運動部・文化部の活動運営のための援助	27	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わらせ、計画的に運営するように指導できたか。本部役員が率先して全校生徒を牽引できたか。	A	文化祭や合唱コンクール、クラスマッチ等で生徒に自主的に活動させる事ができた。特に文化祭では生徒会役員が中心となり全体が一丸となって、各種企画の準備に取り組む姿が見られた。
		28	クラブ活動の支援ができたか。	A	各クラブの顧問のご尽力のおかげで、支援することができた。
保健・清整	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	29	生徒の健康状態について職員間での共通理解を深めるとともに、健康の保持・増進をサポートすることができたか。	B	災害給付及び感染症について、組織的対応により生徒の災害・健康状態の的確な把握に繋がった。今後も安心安全な環境作りを考慮した対応を心掛けた。
		30	生徒の委員会活動や教室・校内の環境整備を通じて、健康的に学校生活を送るための環境衛生の維持に努めることができたか。	A	生徒委員会として、各健診の係担当及び毎日の衛生用品補充、月1回のほけん発行。熱中症及び冬の感染症予防の呼びかけと自主的な取り組みができた。
	校内・校外周辺の環境美化	31	学校全体で清掃活動に意欲的に取り組めたか。	B	先生方に監督をしていただき、おおむね清掃状態は良かったが、一部にスマホ使用があり問題になった。清掃用具の老朽化、欠品等の問題も徐々に解消していきたい。
		32	①校内の環境美化活動を計画的に進めることができたか。	A	年間計画に従い、委員中心にスムーズに行うことができた。
		33	②校外の清掃活動を計画的に行えたか。	B	行事前後に、通学路と校地周辺道路のゴミ拾いを清整委員中心に行った。生徒会本部の協力もありよかった。
図書・視聴覚	資料収集と提供	34	蔵書の構成、また「総合」学習や「進路」学習のための利用をふまえた選書ができたか。	A	限られた予算の中、生徒・職員の要望に応えられるように、対応した。
		35	図書館をさらに利用しやすくするための、リクエストや予約の制度が活用できたか。	A	リクエスト・予約は、常に受け付けている。
		36	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	探究学習の参考資料など、活用頻度は高かった。
	教科との連携	37	各教科での授業やHR、文化祭等で、図書館の利用が活発になされたか。	A	調べ学習など、一定の教科にとらわれず、多くの教科で利用が広がった。
		読書推進活動	38	図書館講座や、活字に親しむように読書週間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A
	39		資料の紹介・図書の推薦が適切に行われたか。	A	図書委員制作の図書館報などをつかい、実行出来た。
	40	多くの職員や放送委員が、より使いやすい放送室を目指して、日常的活動をさらに活発になるように工夫できたか。	A	専門性があり大変ではあるが、生徒の諸活動は非常にうまく運営された。	
41	昨年度に引き続き、高視研の事務局が本校に置かれたことで、最新の情報を仕入れかつ共有することで、日々の授業に役立てることができたか。	B	授業に生かす視聴覚教材についての講習会(於:県ヶ丘高校)を行い、意義のあるものとなった。		
防災	生命を守る危機管理体制の整備	42	令和元年度防災計画の作成・確認はできたか。	A	平成31年度(令和元年度)防災計画作成を行い、職員会で確認することができた。
		43	危急時に備えた職員の意識を高めることができたか。	A	危急の際の職員の対応・普段の生活環境の中での災害危険個所の発見等について、職員の意識は高まっている。
	火災・地震などに対する緊急体制の整備	44	緊急時における職員の初動体制を確認ができたか。	A	避難訓練等を通して、職員の初動体制・生徒の避難体制は確認できた。昨年度の比べ、職員の安否確認がスムーズに進んだ。
		45	防災訓練を実施することにより緊急体制の確認ができたか。	B	予定していた生徒・先生による消火訓練が行えなかった。しかし、実際の災害は、身近でいつ起こるか分からないということを実感できた。来年度も引き続き消火訓練を行う方向で計画を立てる。
渉外	PTA・同窓会活動の活性化	46	PTA活動に対する保護者の理解と関心を高め、諸行事への参加率を向上させることができたか。	B	PTA総会への参加率の向上のため、内容の工夫をする。地区PTA等での意見要望等を検討し、PTA通信で保護者に伝えることは今後も継続させる。

教育相談	早期発見・早期支援	47	不登校生徒への早期対応(家庭と学校との連携)	B	担任の様子を聞き、状況に応じて家庭と連絡を取り対応。保護者や本人の希望の沿えるようにサポートした。 来年度の対応方法として「早期対応の目安」を設定し、担任が家庭と連絡を取り話しをきくこと、そこから支援COや教育相談部へ相談・連絡をすることを提案。来年度への改善点とした。
		48	職員研修の充実(研修会・お便り/資料)	C	今年度は課題が残る。来年度は、研修会等で得た情報を職員に情報共有できるように、お便り発行や伝達講習を行いたい。
		49	早期発見のための「生活アンケート」「アセス」の実施	C	・今年度「アセス」は実施せず。 ・「生活アンケート」は年1回実施。経過を見るなら年2回も考えられる。来年度への検討事項として引き継ぎたい。
情報処理	教職員のICT機器活用能力の向上	50	普通教室に整備された電子黒板をはじめとするICT機器を、各授業にて活用できるよう研修を計画実施できたか。	A	普通教室にICT機器が整備され、授業にてそれらを活用する教員が増え始めた。今後、様々な事例を紹介しつつ、さらに利活用者を増やしていく。
		51	情報モラル教育の推進	B	情報の授業や生活指導部、さらには有識者による講演会を通して、情報モラルに対する啓発・教育活動は計画通り実施できたが、実際に問題行動が発生したり、保護者からのスマホに対する指導要望がある点を踏まえ、今後学校全体としての方針やスタンスを明確にしていく必要がある。
		52	安心・安全な情報資産の維持管理	A	伝達研修会や職員会議を通して、情報資産に対する意識を高めることができた。情報資産を管理する部署として、今後もデータ整理等を確実にしていく。また、来年度は校内ネットワークシステムの更新が計画されているので、スムーズに移行できるよう準備していく。
<b>委員会</b>	<b>重点項目</b>	<b>No.</b>	<b>評価の観点</b>	<b>評価</b>	<b>成果と課題・改善策</b>
入学選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行	53	昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。		今後の遂行にご協力をお願いします。
将来構想・学習検討	本校の将来像を考えるための基礎構築	54	本校の現状についての多様な意見交換を行い、生徒急減期に備えて、また将来像を描く上での方向性を論議する	B	「3つの方針」の検討と並行して、例年同様に職員研修会を行い、意見交換を行った。学校環境の変化に伴い、変革の途上であるため、引き続き議論を継続する必要がある。
		55	本校の現状を理解するために教職員・保護者・生徒に対してアンケートを実施し分析した上で教育活動に活用する	B	授業アンケートを2回(6月と11月)、学校評価アンケートを1回(12月)行い、特に授業アンケートでは集計の方式を変更した。教育活動への活用を今後も模索したい。
「総合」運営	進路に関する積極的な意識づけと自己の目標の設定	56	「総合的な学習の時間」および「総合的な探究の時間」の中で、高校卒業後の自己の進路実現に向けて、各学年の設定した学習目標が達成できたかどうか。(全学年)	A	各学年、計画通り実施ができ、目標を達成できた。
		57	「探究的学び」を取り入れた「総合学習の時間」を計画・実施できたか。(2学年)	B	総合的な学習の時間について、計画通り実施できた。探究的な学びを取り入れることについては、不十分であった。計画や実施方法についてさらに研究が必要である。
		58	「総合的な探究の時間」を通して、探究のプロセスを踏まえた活動が計画・実施できたか。(1学年)	B	1年次は、探究活動の基本・練習、2年次は探究活動の実践・本番という形でスタートしている。 1年次の活動は、昨年度実施してきたことを基に、さらに改善を加え、充実した活動が概ねできた。 2年次の活動について研究が必要である。
人権教育	人権意識の向上	59	人間尊重の意義、及び様々な人権問題についての正しい理解と知識を深める学習ができたか。	A	全校で、映画「ひまわり～沖繩は忘れない あの日を空を～」を鑑賞した。沖繩の歴史、現在抱えている問題を知る中で、「平和」と「人権」の切り離せない相互関係を考えるきっかけとなった。
		60	互いの個性を認め合い、友情を育む学習が行えたか。	B	学校行事、生徒会行事等に積極的に取り組む中で、友情の深まり・新たな人間関係の形成が為されている。今後、さらに教科や学年・HR活動等で、何かひとつテーマを持って話し合うような学習の工夫が必要であろう。
教育課程	生徒の多様な進路希望に対応できるように、基礎学力を定着させるための教育課程の工夫と改善。	61	新課程実施に向けた新たな取り組みに挑戦しながら、予想される様々な問題点を発見し対応策を講じることができたか。	A	生徒の多様な進路に応じた選択ができるように教育課程の編成に配慮することができた。またICT機器が導入され、各教科において生徒の関心と理解を深める工夫ある授業を模索するようになった。
		62	新高等学校学習指導要領に基づく新教育課程の編成の本格検討。	A	本校のめざす将来像と関連するだけに慎重な審議が必要となる。今後の本格的な検討に向けた原案段階までは提示することができた。来年度中に最終決定する見通しで今後の議論を進めてほしい。
		63	大学入学共通テスト(新テスト)に求められる「思考力、判断力、表現力」を伸ばす教育課程および講座の編成。	B	新テストの実施に翻弄されるなかで十分な検討を積み重ねることが困難だったが、各教科で授業の内容に工夫を凝らす取り組みを意識するようになってきている。
		64	生徒が意欲をもって主体的に取り組む「総合的な探究の時間」を構築する。	B	まだ試行錯誤が続いているが、学年団が協力して豊科高校らしい「総合的な探究の時間」を追求している。
学校衛生	職員の安全衛生及び健康保持増進を図る	65	職員の健康診断を全員実施が達成できたか。	B	人間ドックに未受診者が出るため、受診勧告を複数回実施し受診率向上に繋がったが、全員受診となるよう職員の意識を高めたい。
		66	衛生委員会を定期的に開催できたか	B	不定期開催となったが、毎月の書面交付による情報提供により広く周知できた。
合宿所運営	・使用規定の遵守	67	新合宿所使用がスムーズな手続きで行えたか	A	問題なくスムーズな使用ができた。合宿やミーティングで使うモニター等の設置が必要であると思われる
生徒支援	早期発見・早期支援	68	【教育相談部同様】担任・学年の選出委員・教育相談部・家庭で共通理解しながら早期の支援体制がとれたか。	B	生徒や担任との状況等みながら対応をできた。 来年度は、担任から学年選出委員へ、担任や委員から教育相談部への連絡・相談を早期に行うことを改善点としたい。
セクハラ対策	被害者・加害者にならないためのセクシャルハラスメントの正しい理解推進	69	研修会等、様々な機会をとらえて意識の向上が図られたか。	A	問題事例なし。コンプライアンス研修の中でも意識を高めることができた。

学校評議員校内運営	学校運営に生きる情報の発信と収集、及び学校の外部者からの提言内容の検討	70	学校評議員からの意見や提言を学校運営に活かせる方向で検討することができたか。	B	新たに作成された「3つの方針」「グランドデザイン」と学校の現状について説明した。今後の学校運営にいかせるように、委員からの意見要望等を情報共有していきたい。
しなの木セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援	71	進路実現と学力向上のために有効な講座設定や円滑な運営ができたか。	B	年間を通じて各学年とも円滑に運営できた。多様な進路希望に沿って補習や模擬試験などを実施し、学習意欲や学力の向上に寄与できた。
いじめ対策	いじめの未然防止・早期発見に向けた生徒指導の取り組みについての研究と実践	72	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、未然防止・早期発見のための職員間の連携が機能したか。	B	大きいじめの事案はなかったが、特にSNSの使い方については生活指導部と連携して未然防止の指導をさらに図っていきたい。
		73	問題対応とその指導が適切になされたか。	A	アンケートや日常の声掛け、担任との懇談などを通じて早期の対応ができるよう職員連携を図った。
コンプライアンス	公務員としてのコンプライアンス意識を高めるために個人とともに職場全体で研修に取り組む	74	1年間を通して、効果的な研修が行え、その結果として各個人・職場としてのコンプライアンス意識が向上したか。	A	チェックシートと面談、職員会での呼びかけを通して、コンプライアンスの意識を高めることができた。「飲酒運転の根絶」及び「わいせつ行為の根絶」のための校内ルールを策定した。校内委員会の開催不十分により取組の振り返りには課題が残ったが、次年度は外部講師による研修等も企画したい。
図書選定	資料収集と提供	75	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。探求的学習の一助となれたか。	A	探究学習の参考図書など、多くの利用を図る為の選定を行った。